

## 自己評価及び外部評価結果

## 【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0194200044		
法人名	有限会社M&Y		
事業所名	グループホーム羅臼しおさい 1階		
所在地	北海道日釧羅臼町湯ノ沢町14-5		
自己評価作成日	平成30年10月5日	評価結果市町村受理日	平成30年11月7日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	<a href="http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/01/index.php?action_kouhyou_detail_2018_022_kan=true&amp;JigyosyoCd=0194200044-00&amp;PrefCd=01&amp;VersionCd=022">http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/01/index.php?action_kouhyou_detail_2018_022_kan=true&amp;JigyosyoCd=0194200044-00&amp;PrefCd=01&amp;VersionCd=022</a>
-------------	---

## 【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	タンジェント株式会社
所在地	北海道旭川市緑が丘東1条3丁目1番6号 旭川リサーチセンター内
訪問調査日	平成30年10月30日

## 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

当ホームは世界自然遺産という大自然の中に位置しており、環境的に大変恵まれた所です。熊や鹿、キタキツネや大鷲等沢山の野生動物を真近で見ることが出来ます。多少町からは離れているものの車で走ればほんの数分の所に今までの利用者様が生活していた町があり、昔からの知人や友人も気軽に遊びに来てくれ、昔話や互いの近況報告等の話に花を咲かせています。その他にも地元婦人部の方が歌や踊りの慰問、地元高校生が吹奏楽やよさこいを披露しに来てくれる事で交流の機会を持つことが出来ています。それから当ホームで常に心掛けている事は利用者様個々の出来る事、やりたい事を大切にしています。食器拭きや洗濯たみ、掃除等の作業を一緒に行い日々の中で役割を持ってもらう。又、利用者様個々の趣味やカラオケ等楽しみに繋がるような声掛けをする事で、利用者様が生き生きと生活をしていけるようお手伝いを心掛けています。又、利用者様と職員の関係が利用者、職員としてではなく人対人として 共に笑い、共に泣き、時には共に怒り と一緒に感じながら過ごしていきたいと考えています。

## 【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

知床世界自然遺産を間近に見つ、町の温泉施設が隣接して自然の風景を楽しみながら生活ができる環境の中に平成19年12月開設の木造2階建て2ユニット(定員:12名)の認知症対応型共同生活介護事業所(グループホーム)です。地元高校生による吹奏楽の演奏会、よさこい踊りの披露、婦人部や青年部の方の慰問、高校生の体験学習の受け入れや高校の福祉講習会の講師を務めるなど地域の人々との交流や事業所の持つ専門性を活かして、地域貢献に取り組んでいる。また、勤続年数の永い職員が多く在籍しており、馴染みの美容室や理容室の訪問など本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めていると共に日常生活の中で、職員と一緒に掃除、食器拭き、洗濯たみ等を一緒に行い、喜怒哀楽を共感しながら信頼関係を築いていけるよう努め、安定したケアサービスの提供に取り組んでいる。

## V サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取組を自己点検した上で、成果について自己評価します

項目	取組の成果		項目	取組の成果	
	↓該当するものに○印			↓該当するものに○印	
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向をつかんでいる (参考項目:23、24、25)	<input type="radio"/>	1 ほぼ全ての利用者の 2 利用者の2/3くらい 3 利用者の1/3くらい 4 ほとんどつかんでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9、10、19)	<input type="radio"/>	1 ほぼ全ての家族と 2 家族の2/3くらい 3 家族の1/3くらい 4 ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18、38)	<input type="radio"/>	1 毎日ある 2 数日に1回程度ある 3 たまにある 4 ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2、20)	<input type="radio"/>	1 ほぼ毎日のように 2 数日に1回程度 3 たまに 4 ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	<input type="radio"/>	1 ほぼ全ての利用者が 2 利用者の2/3くらい 3 利用者の1/3くらい 4 ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	<input type="radio"/>	1 大いに増えている 2 少しずつ増えている 3 あまり増えていない 4 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36、37)	<input type="radio"/>	1 ほぼ全ての利用者が 2 利用者の2/3くらい 3 利用者の1/3くらい 4 ほとんどいない	66 職員は、活き活きと働けている (参考項目:11、12)	<input type="radio"/>	1 ほぼ全ての職員が 2 職員の2/3くらい 3 職員の1/3くらい 4 ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	<input type="radio"/>	1 ほぼ全ての利用者が 2 利用者の2/3くらい 3 利用者の1/3くらい 4 ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/>	1 ほぼ全ての利用者が 2 利用者の2/3くらい 3 利用者の1/3くらい 4 ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目:30、31)	<input type="radio"/>	1 ほぼ全ての利用者が 2 利用者の2/3くらい 3 利用者の1/3くらい 4 ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/>	1 ほぼ全ての家族等が 2 家族等の2/3くらい 3 家族等の1/3くらい 4 ほとんどできていない
62 利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	<input type="radio"/>	1 ほぼ全ての利用者が 2 利用者の2/3くらい 3 利用者の1/3くらい 4 ほとんどいない			

## 自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I 理念に基づく運営</b>					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念を作り、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	法人内理念を基に事業所独自の理念を職員全員で作成し、その理念を共有し、より良いサービスの提供へ繋がる様努めている。	地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所独自の理念を作り上げ、職員会議や日常業務を通じてその理念を職員間で共有して実践につなげている。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	行事や避難訓練等も地域の方に参加して頂けるよう努め、婦人部の慰問や地元高校生の吹奏楽やよさこいの踊りに来て頂いたり、町のお祭りの時期にはその年ごとの町内会婦人部の踊りや青年部の神輿等の交流の機会を持てる様努めている。	地元高校生による吹奏楽の演奏会、よさこい踊りの披露、婦人部や青年部の方の慰問、高校生の体験学習の受け入れや高校の福祉講習会の講師を務めるなど地域の人々との交流や事業所の持つ専門性を活かして、地域貢献に取り組んでいる。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地元高校生の職業体験の受け入れや高校生進路セミナー講師を行っている。又、ホーム見学も自由に受け入れられるようしている。利用者家族には毎月のしおさい通信に「認知症の豆知識」を載せ、認知症の理解を深めて頂けるよう取り組みをしている。		
4	3	○運営推進会議を活かした取組 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取組状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議ではホームでの取り組みや近況報告をするとともに、運推メンバーからの質問や意見、要望を頂く事により、今後の運営に活かせるよう努めている。又、行事や避難訓練に実際に参加して頂く事で、生でホームの様子や活動を見て頂き、ホームでの取り組みに理解を深めて頂けるよう努めている。	定期的に運営推進会議を開催して、事業所の取り組み状況や日常生活の様子など具体的内容について話し合い、そこでの意見等をサービス向上に活かせるよう努めている。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議や野外昼食会、クリスマス会等ホームでの行事に参加して頂いている。避難訓練にも参加して頂き、訓練終了後の職員の反省会にも同席して頂き、市町村担当者からも意見を頂きながら、実情を理解して頂けるよう努めている。又、新規利用者受け入れ時には市町村担当者にも報告し、情報共有出来る様努めている。	町担当者とは、日常業務を通じて情報交換や指導、助言等を得ながら、協力関係を築くように取り組んでいる。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束廃止委員会を設置している。毎月開催の職員会議時に全職員による身体拘束廃止委員会を行い、「禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解出来る様努めると共に、全職員で身体拘束をしないケアについて話し合いの場を持っている。又、玄関の施錠については夜間以外は解放している。	指定基準における禁止の対象となる具体的な行為を身体拘束廃止委員会が中心となって内部研修会を開催して正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	毎月の職員会議時に身体拘束をしないケアの取り組みとして、全職員が身体拘束にあたる行為や言動等について話し合いの場を持っている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	成年後見人制度を利用している利用者が居ない事もあり、個々の職員が制度の把握が出来ているとは言えない。ただ、必要と思われる方について行政の方と相談し、その方が安心してグループホームでの生活が継続出来る様協力を頂いている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又ははや改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時には契約書、重要事項説明書にて十分に説明し、納得を頂いたうえで契約をしている。又、利用者や家族の不安や疑問等いつでも相談出来る様随時時間を設け説明をしている。又、改正時にも同様詳しく説明し同意を得ている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	玄関に意見箱を設置し、自由に意見を言って貰えるようにしている。又、運営推進会議の場でも自由に意見を言って貰える場を設けたり、家族が来所された際にも、いつでも気軽に声を掛けて頂けるよう努めている。利用者については、毎日の生活の中で出来るだけ会話をする時間を作る事で意見や要望を聞ける様努めている。	玄関に意見箱の設置や外部者へ意見や苦情等を言い表せるように申し出先を明示している。また、第三者機関への申し出先も明示し、そこでの意見等を運営に反映できるように努めている。	
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員会議を利用し、管理者は常に職員の意見や提案を聞ける機会を作っている。職員会議に関わらず随時面談をし、職員の声を聞ける環境を作り、日々のサービスに反映させている。	職員会議や日常業務を通じて、職員からの意見や提案、アイデア等を聞く機会を設けて、運営に反映できるように努めている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	代表者は職員個々の勤務状況や努力等を把握し、職場環境、条件の整備に努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	毎月行われる職員会議時には全職員持ち回りで現場に即した内容の勉強会やキャリアパス研修を取り入れ、介護技術等の向上に努め、それ以外にも随時個別にフロア主任が技術指導を行っている。実務者研修等、事業所以外での研修も出来る限り参加出来る様心掛けている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組をしている	当ホームは遠隔地にある事もあり、交流が縁遠くなってしまうが、出来る限り地元で開催される研修に参加するようにし、自分のホームの中の事だけでなく、他事業所の取り組みや意見交換をする事で職員個々のサービスの質の向上を心掛けている。		
<b>II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前に御本人との面談を必ず行い、病歴や身体状況の把握を行う。又利用者本人の言葉から趣味や日常生活の状況や本人の思いを理解出来る様努め、職員間での情報を共有し、出来る限り本人が不安に思う事がない様努めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	利用を開始するにあたり御家族との面談を行い、御家族の心配事や要望等いつでも相談出来る事を伝え、職員個々に対応出来る様情報を共有し、家族が制限なく自由にホームに出入り出来る事や、利用者の外出、外泊も自由に出来る事等を伝え出来る限り安心して利用開始出来る様努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	まずは、御家族様と本人の状況を理解し、必要と思われるサービスの利用の相談を行っている。例えば訪問診療や有償サービスの利用や福祉用具等今後必要と思われる様々な事についても相談、検討し対応するよう努めている。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	日常生活の中で、軽作業(掃除、食器拭き、洗濯たたみ等)を一緒に行い、食事も同じものを一緒に食べ、行事等も一緒に楽しみ、会話をする時間を作り、喜怒哀楽を共感し、共に支え合いながら信頼関係を築いていけるよう努めている。		
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	利用者の日常生活の中での出来事を毎月発行のしおさい通信や御家族様の来所時に話し伝えている。体調の変化等は電話で報告し、本人からの要望や相談があった時等も御家族様に伝え、常に現在の利用者様の状況を御家族様と共有し、相談しながら支援するよう努めている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	本人がこれまで築いてきた人間関係や社会関係を断ち切らない様出来る限り一人一人の生活習慣を尊重している。馴染みの美容室や理容室の利用継続や昔からの知人等との手紙のやり取りや、ホームにも気軽に来所して頂いたり、交流が継続出来る様努めている。	馴染みの美容室や商店の利用、知人や友人との手紙のやり取りなどで馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者一人一人の関係性を職員が情報を共有し、日常の軽作業や行事等を一緒に行う事で利用者様同士の関係が良好になる様努め、一人一人が孤立する事のない様、又、トラブルになりそうな時は職員が間に入る等の対応をしている。		
22		○関係を断ち切らない取組 サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービスの利用が終了した後も、これまでの関係を断ち切る事のない様、本人や御家族様から相談があれば対応出来る様にし、気軽に遊びに来てもらえる様心掛けている。		
<b>Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の関わりの中で、利用者一人一人の思いや希望等さりげない聞き取りをし、又、表情や行動からも思いをくみ取れる様努めている。困難な場合は御家族様にも相談し、ケースカンファレンスを行い、出来る限り本人本位に出来る様検討している。	一人ひとりの思いや意向、生活歴の把握をカンファレンス等で職員間で情報を共有し、本人本位の支援に努めている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	御家族様が来所した際に聞き取りや、本人との何気ない会話の中から情報を聞き取り、センター方式も活用し、これまでの生活環境やサービス利用の経過等の把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	利用者様個々の一日の過ごし方や身体状況を記録に残し、現在出来る事やしている事の情報を共有しカンファレンスで話し合い、把握したうえで現状維持に努め、利用者様個々の意欲の向上を目標としている。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人に必要な情報をセンター方式を活用し全職員で情報を共有出来る様努めている。又、カンファレンスを通じ全職員の意見を参考に本人に現在必要な支援を見極め介護計画を作成している。介護計画作成時には本人の言葉を大切に、必ず家族様との相談も行い、家族様の思い、要望も取り入れながら作成している。	本人・家族等の意向や要望、カンファレンスや日常業務を通じて職員の意見やアイデアを反映して、現状に即した介護計画を作成している。また、状態変化時には、都度見直しを実施している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	生活記録やセンター方式の中で本人の言葉を大切ににする為、話した言葉や行動を出来る限り記録に残し、それを元にカンファレンスを行い職員間で情報を共有している。ホームでの生活の中で本人の思いに気づける様努めている。又、介護計画見直しの際にはセンター方式を行っている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスにとらわれない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	通院介助が困難な利用者様や御家族様については、診療所に相談し、訪問診療を利用したり、有償サービスの利用等の対応をしている。又、その時々で御家族様や御本人と相談し、出来る限り柔軟な対応が出来る様努めている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	必要な利用者様には歯科医の往診や診療所の訪問診療、訪問看護を利用している。又、地元の理容室や入居前から利用していた美容室に来て頂き、入居前からの関係が断ち切られる事のない様努めている。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人や家族が希望するかかりつけ医を受診している。必要な方には町外の専門医への受診もしている。基本的には家族同行の受診となっているが、身体状況や本人、家族の希望により地元の診療所より訪問診療による受診も受けて貰っている。受診時には情報提供書を提出し、場合によってはスタッフも同行しスムーズな受診が出来る様努めている。	受診は、本人・家族が希望するかかりつけ医となっている。また、訪問診療や通院への支援、日常の健康管理で適切な医療が受けられるように取り組んでいる。	
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	職員は利用者様に変化があった時には、看護師に連絡をし、的確な指示を受けることが出来ている。又、月一回の訪問診療をして頂く事で通院困難な利用者様も定期的な受診が出来ている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている、又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	出来る限り早期の受診により入院する事のない様努めているが、入院になった場合には、データベースや報告書の提出をしている。又、利用者様の状況変化時には病院に報告し情報共有出来る様に努めている。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者とともにチームで支援に取り組んでいる	重度化した場合の対応及び看取りに関する指針を持ち、重度化、終末期については利用時に事業所の出来る事を説明し、本人や家族の希望や意向を踏まえ、医師、看護師、職員が連携をとり、早い段階から本人の状況や事業所が支援出来る限界を家族に丁寧に説明しながら方針を職員間で共有している。	重度化、終末期のあり方について早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を職員間で共有している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	ほぼ全職員が救命救急講習を受講している。急変時の対応マニュアルを用意し、いつでも目を通せる様にしている。又、毎月の勉強会でも応急手当の仕方等も取り入れ、実践力を身に付けられるよう心掛けている。又、施設内にAEDの設置もしている。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	火災避難訓練は日中、夜間を想定し年2回行っている。訓練時には家族様にも参加頂いている。地域の方の協力体制は万全とは言えないが少しずつでも協力して頂ける様呼びかけしている。地震や津波等の自然災害に備えて町の防災訓練に参加し防災意識を高めている。	昼夜を想定した火災避難訓練を年2回実施している。また、自然災害(地震、津波等)についても町主催の防災訓練に参加している。	
<b>IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	入浴時やトイレ介助時等には本人のプライバシーに最大限配慮し、利用者の個室におじゃまる時にも必ず声掛けをするよう努めている。	接遇等の内部研修会を通じて、一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者個々の情報をスタッフ全員で共有し、利用者との会話や何気ない言葉や表情から本人の意思を引き出し感じ取れるよう努めています。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望に沿って支援している	毎日利用者様と談話する時間を持つ様心掛け、居室で作業をする方や車いすや歩行運動をする方等、個々のペースで行える様努めている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	衣類の用意が困難な利用者様には本人が選択出来るように声掛け等に工夫している。基本的に利用者様と相談しながら、その人らしさを考慮し対応している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者様皆さん毎日の食事を楽しみにされているので、利用様の食べたいものを聞いたり、新鮮な食材を使い、食事の中でも季節を感じ、楽しく食事をして頂けるよう心掛けている。又、食後の茶碗拭きは利用者個々の役割として楽しみの一つとなっている。	一人ひとりの好みや力を活かしながら、職員と一緒にお膳拭きや食器洗い・食器拭き等をしている。また、季節を感じられる食事の工夫をしている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	毎食のメニューを記録に残し、栄養のバランスを考慮した食事が提供出来る様心掛けている。一日の食事摂取量や水分量も毎日記録に残し職員間で共有出来る様している。又、自力での摂取が困難な利用者にはストローを利用したり、場合によっては介助で摂取して頂いている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	自分で出来る利用者には毎食後歯磨きやうがいの声掛けをし、介助が必要な利用者様には歯ブラシやモアブラシ等で口の中や舌に汚れが残っていないか確認している。又、就寝前には毎日必ず義歯洗浄を行っている。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	利用者個々の排泄のリズムに合わせて、時間を見て誘導の声掛けを行っている。又、排泄の失敗があった場合にも本人のプライバシーに配慮し、さりげなく声掛けしている。	一人ひとりの力や排泄パターンを把握し、プライバシーへの配慮に十分注意しながらトイレで排泄できるよう取り組んでいる。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	便秘予防の為毎朝起床時に牛乳を飲んで頂き、毎昼食にヨーグルトを摂って頂く事で排便がスムーズに出来る様支援している。又、それでも便秘がちな方については、医師に相談し排便を促す薬の処方等して頂いている。		
45	17	○入浴を楽しむことのできる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々に沿った支援をしている	入浴の曜日に特に決まりはなく、基本的には入浴の時間帯は決まってはいるが、希望があれば時間帯をずらす等し、気持ち良く入浴出来る様支援し、三日に一回は入浴出来る様している。	一人ひとりの希望やタイミング、生活習慣に応じて週2回の入浴を目安に個々に沿った支援をしている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	利用者個々のその日の体調に合わせて休んで頂いたり、足のむくみのひどい時には足を高くして休んで頂いたりしている。夜間については、一人一人の生活習慣に応じ好きな時間に休んで頂いたり、睡眠を促したりしている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	個別に処方内容をファイルしており、いつでも確認出来る様にし、薬の変更があった場合には個人記録に記入、申し送り等全職員が把握出来る様にしている。又、薬をセットする際には間違えない様複数名で確認している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	利用者様個々の出来る事、食器吹きや洗濯のため、新聞紙折り等、職員と一緒にいき、作業前後には必ず利用者様に「お願いします」「ありがとうございます」とお礼をする事で、やりがいを感じる事が出来る様支援している。		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望に沿って、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	冬場は雪が多く、風も強い為外出の機会が少なくなってしまうが、その時期以外は御家族様にも協力して頂き外出する機会を持って頂けるよう努めている。	一人ひとりのその日の希望にそって、馴染みの美容室や理容室の訪問、町内の馴染みの店での買い物や地域の行事参加など戸外に出かけられるように支援している。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	個々に御家族様と相談し、事業所が預かり管理しているが、本人がほしいものがある時には、御家族様に連絡し、準備してもらったり、購入したり出来る様にしている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	利用者様が電話をする時には気兼ねなく出来る様自室でゆっくり会話して頂いている。自分でかけられない方でもスタッフが代わりに番号を押すお手伝いをさせて頂いている。手紙についても本人宛のものは本人に渡し、出したい手紙は代わりにポストに入れる等利用者様に合わせた対応をし、大切な人との関係を断ち切る事のない様努めている。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用空間のホールでは生活感が感じられるような匂い(調理の音や匂い、何気ないテレビの音等)の中で過ごして頂いている。又、季節感を取り入れた飾り付け(正月、クリスマス、ひなまつり等)をし、目でも季節を感じる事が出来る様している。又、スタッフが作る雑音には十分に気を付け、ゆったりと居心地良く過ごして頂けるよう心掛けている。	利用者にとって気になる臭いや音の大きさ、光の強さは感じられない。また、共用空間には、季節に合わせた飾り付けや行事や日常生活の様子の写真が掲示され、生活感や季節感を採り入れ居心地よく過ごせるような工夫をしている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ホールのソファや食卓テーブルで気の合った利用者様同士と一緒にテレビを見たり、談話をしたりと思い思いに過ごされているが、共用空間に独りになれるスペースはない。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	利用者様の個室には自宅で使っていた馴染みのものを置いて頂き、家族様が持ってきた写真や飾り物等を飾っている。又、利用者様の趣味(書道や工作)は本人が疲れない範囲で自由にして頂いている。	居室には、使い慣れた家具や寝具等を持ち込まれ、本人が居心地よく過ごせるような空間になっている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	食卓テーブルの椅子に利用者様の名前シールを張り出し、自分の場所が分かる様にしている。トイレにも大きく張り出す事で分かりやすくしている。又、トイレ内の流すボタンも分かりやすく説明を書く事で自分で認識出来る様している。		



自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

Table with 2 columns: Field Name, Value. Fields include: 事業所番号 (0194200044), 法人名 (有限会社M&Y), 事業所名 (グループホーム 羅臼しおさい 2階), 所在地 (北海道日 梨郡羅臼町湯ノ沢町14-5), 自己評価作成日 (平成30年10月5日), 評価結果市町村受理日 (平成30年11月7日)

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL [http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/01/index.php?action=kouhyou\\_detail\\_2018\\_022\\_kan=true&JigyosyoCd=0194200044-00&PrefCd=01&VersionCd=022](http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/01/index.php?action=kouhyou_detail_2018_022_kan=true&JigyosyoCd=0194200044-00&PrefCd=01&VersionCd=022)

【評価機関概要(評価機関記入)】

Table with 2 columns: Field Name, Value. Fields include: 評価機関名 (タンジент株式会社), 所在地 (北海道旭川市緑が丘東1条3丁目1番6号 旭川リサーチセンター内), 訪問調査日 (平成30年10月30日)

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

当ホームは世界自然遺産という大自然の中に位置しており、環境的に大変恵まれた所です。熊や鹿、キタキツネや大鷲等沢山の野生動物を真近で見ることが出来ます。多少町からは離れているものの車で走ればほんの数分の所に今までの利用者様が生活していた町があり、昔からの知人や友人も気軽に遊びに来てくれ、昔話や互いの近況報告等の話に花を咲かせています。その他にも地元婦人部の方が歌や踊りの慰問、地元高校生が吹奏楽やよさこいを披露に来てくれる事で交流の機会を持つことが出来ています。それから当ホームで常に心掛けている事は利用者様個々の出来る事、やりたい事を大切にしています。食器拭きや洗濯たたみ、掃除等の作業を一緒に行い日々の中で役割を持ってもらう。又、利用者様個々の趣味やカラオケ等楽しみに繋がるような声掛けをする事で、利用者様が生き生きと生活をしていけるようお手伝いを心掛けています。又、利用者様と職員の関係が利用者、職員としてではなく人対人として 共に笑い、共に泣き、時には共に怒り と一緒に感じながら過ごしていきたいと考えています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

(Empty box for external evaluation comments)

V サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取組を自己点検した上で、成果について自己評価します

Large table with 4 columns: Item No., Item Description, Achievement Level (1-4), and Achievement Level (1-4). Rows 56-62 describe various service outcomes and their achievement levels.

## 自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I 理念に基づく運営</b>					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念を作り、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	法人内理念を基に事業所独自の理念を職員全員で作し、その理念を共有し、より良いサービスの提供へ繋がる様努めている。		
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	行事や避難訓練等も地域の方に参加して頂けるよう努め、婦人部の慰問や地元高校生の吹奏楽やよさこいの踊りに来て頂いたり、町のお祭りの時期にはその年ごとの町内会婦人部の踊りや青年部の神輿等の交流の機会を持てる様努めている。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地元高校生の職業体験の受け入れや高校生進路セミナー講師を行っている。又、ホーム見学も自由に受け入れられるようしている。利用者家族には毎月のしおさい通信に「認知症の豆知識」を載せ、認知症の理解を深めて頂けるよう取り組みをしている。		
4	3	○運営推進会議を活かした取組 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取組状況等について報告や話し合いを行い、そこの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議ではホームでの取り組みや近況報告をするとともに、運推メンバーからの質問や意見、要望を頂く事により、今後の運営に活かせるよう努めている。又、行事や避難訓練に実際に参加して頂く事で、生でホームの様子や活動を見て頂き、ホームでの取り組みに理解を深めて頂けるよう努めている。		
5	4	○市町村との連携 市町村担当者とは日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	運営推進会議や野外昼食会、クリスマス会等ホームでの行事に参加して頂いている。避難訓練にも参加して頂き、訓練終了後の職員の反省会にも同席して頂き、市町村担当者からも意見を頂きながら、実情を理解して頂けるよう努めている。又、新規利用者受け入れ時には市町村担当者にも報告し、情報共有出来る様努めている。		
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束廃止委員会を設置している。毎月開催の職員会議時に全職員による身体拘束廃止委員会を行い、「禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解出来る様努めると共に、全職員で身体拘束をしないケアについて話し合いの場を持っている。又、玄関の施錠については夜間以外は解放している。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	毎月の職員会議時に身体拘束をしないケアの取り組みとして、全職員が身体拘束にあたる行為や言動等について話し合いの場を持っている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	成年後見人制度を利用している利用者が居ない事もあり、個々の職員が制度の把握が出来ているとは言えない。ただ、必要と思われる方について行政の方と相談し、その方が安心してグループホームでの生活が継続出来る様協力を頂いている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又はや改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時には契約書、重要事項説明書にて十分に説明し、納得を頂いたうえで契約をしている。又、利用者や家族の不安や疑問等いつでも相談出来る様随時時間を設け説明をしている。又、改正時にも同様詳しく説明し同意を得ている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	玄関に意見箱を設置し、自由に意見を言って貰えるようにしている。又、運営推進会議の場でも自由に意見を言って貰える場を設けたり、家族が来所された際にも、いつでも気軽に声を掛けて頂けるよう努めている。利用者については、毎日の生活の中で出来るだけ会話をする時間を作る事で意見や要望を聞ける様努めている。		
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員会議を利用し、管理者は常に職員の意見や提案を聞ける機会を作っている。職員会議に関わらず随時面談をし、職員の声を聞ける環境を作り、日々のサービスに反映させている。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	代表者は職員個々の勤務状況や努力等を把握し、職場環境、条件の整備に努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	毎月行われる職員会議時には全職員持ち回りで現場に即した内容の勉強会やキャリアパス研修を取り入れ、介護技術等の向上に努め、それ以外でも随時個別にフロア主任が技術指導を行っている。実務者研修等、事業所以外での研修も出来る限り参加出来る様心掛けている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組をしている	当ホームは遠隔地にある事もあり、交流が縁遠くなってしまうが、出来る限り地元で開催される研修に参加するようにし、自分のホームの中の事だけでなく、他事業所の取り組みや意見交換をする事で職員個々のサービスの質の向上を心掛けている。		
<b>II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前に御本人との面談を必ず行い、病歴や身体状況の把握を行う。又利用者本人の言葉から趣味や日常生活の状況や本人の思いを理解出来る様努め、職員間での情報を共有し、出来る限り本人が不安に思う事がない様努めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	利用を開始するにあたり御家族との面談を行い、御家族の心配事や要望等いつでも相談出来る事を伝え、職員個々が対応出来る様情報を共有し、家族が制限なく自由にホームに出入り出来る事や、利用者の外出、外泊も自由に出来る事等を伝え出来る限り安心して利用開始出来る様努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	まずは、御家族様と本人の状況を理解し、必要と思われるサービスの利用の相談を行っている。例えば訪問診療や有償サービスの利用や福祉用具等今後必要と思われる様々な事についても相談、検討し対応するよう努めている。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	日常生活の中で、軽作業(掃除、食器拭き、洗濯たたみ等)を一緒に行い、食事と同じものを一緒に食べ、行事等も一緒に楽しみ、会話をする時間を作り、喜怒哀楽を共感し、共に支え合いながら信頼関係を築いていけるよう努めている。		
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	利用者の日常生活の中での出来事を毎月発行のしおさい通信や御家族様の来所時に話し伝えている。体調の変化等は電話で報告し、本人からの要望や相談があった時等も御家族様に伝え、常に現在の利用者様の状況を御家族様と共有し、相談しながら支援するよう努めている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	本人がこれまで築いてきた人間関係や社会関係を断ち切らない様出来る限り一人一人の生活習慣を尊重している。馴染みの美容室や理容室の利用継続や昔からの知人等との手紙のやり取りや、ホームにも気軽に来所して頂いたり、交流が継続出来る様努めている。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士の関係性について、1人1人が孤立する事のない様、食事時以外の時間もホールに集まりカラオケやテレビ、歌を一緒に聞いたり、お茶を一緒に飲みながら皆で談話をする機会を作っている。又、トラブルになりそうな時は職員が間に入る等の対応をしている。		
22		○関係を断ち切らない取組 サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービスの利用が終了した後も、これまでの関係を断ち切る事のない様、本人や御家族様から相談があれば対応出来る様にし、気軽に遊びに来てもらえる様心掛けている。		
<b>Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人や家族の希望を聞き、希望する暮らし方が出来る様努めている。又、普段の何気ない会話から本人の思い等を聞き入れたり、表情や行動からも思いをくみ取れるよう努め、利用者1人1人の思いを把握する努力をする。困難な場合はケースカンファレンスで出来る限り本人本位に出来る様検討している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	御家族様が来所した際に聞き取りや、本人との何気ない会話の中から情報を聞き取り、センター方式も活用し、これまでの生活環境やサービス利用の経過等の把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	利用者1人1人のその日の様子を記録に残し、身体面、精神面での変化等がある時にはスタッフ間で引継ぎ、共有し、必要時には御家族様にも連絡をし、現状の把握と共有に努めている。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人に必要な情報をセンター方式を活用し全職員で情報を共有出来る様努めている。又、カンファレンスを通じ全職員の意見を参考に本人に現在必要な支援を見極め介護計画を作成している。介護計画作成時には本人の言葉を大切に、必ず家族様との相談も行い、家族様の思い、要望も取り入れながら作成している。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	毎日の生活の様子を記録に残し、全職員が情報を共有出来る様努め、変化のあった時や利用者に必要な事柄が起きた時には御家族様も含め話し合いの時間をもち、早めに対応し計画の見直しをしています。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスにとらわれない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	通院介助が困難な利用者様や御家族様については、診療所に相談し、訪問診療を利用したり、有償サービスの利用等の対応をしている。又、その時々で御家族様や御本人と相談し、出来る限り柔軟な対応が出来る様努めている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	必要な利用者様には歯科医の往診や診療所の訪問診療、訪問看護を利用している。又、地元の理容室や入居前から利用していた美容室に来て頂き、入居前からの関係が断ち切られる事のない様努めている。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人や家族が希望するかかりつけ医を受診している。必要な方には町外の専門医への受診もしている。基本的には家族同行の受診となっているが、身体状況や本人、家族の希望により地元の診療所より訪問診療による受診も受けて貰っている。受診時には情報提供書を提出し、場合によってはスタッフも同行しスムーズな受診が出来る様努めている。		
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	職員は利用者様に変化があった時には、看護師に連絡をし、的確な指示を受けることが出来ている。又、月一回の訪問診療をして頂く事で通院困難な利用者様も定期的な受診が出来ている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている、又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	出来る限り早期の受診により入院する事のない様努めているが、入院になった場合には、データベースや報告書の提出をしている。又、利用者様の状況変化時には病院に報告し情報共有出来る様に努めている。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所ですることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者とともにチームで支援に取り組んでいる	重度化した場合の対応及び看取りに関する指針を持ち、重度化、終末期については利用時に事業所の出来る事を説明し、本人や家族の希望や意向を踏まえ、医師、看護師、職員が連携をとり、早い段階から本人の状況や事業所が支援出来る限界を家族に丁寧に説明しながら方針を職員間で共有している。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	ほぼ全職員が救命救急講習を受講している。急変時の対応マニュアルを用意し、いつでも目を通せる様にしている。又、毎月の勉強会でも応急手当の仕方等も取り入れ、実践力を身に付けられるよう心掛けている。又、施設内にAEDの設置もしている。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	火災避難訓練は日中、夜間を想定し年2回行っている。訓練時には家族様にも参加頂いている。地域の方の協力体制は万全とは言えないが少しずつでも協力して頂ける様呼びかけている。地震や津波等の自然災害に備えて町の防災訓練に参加し防災意識を高めている。		
<b>IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	入浴時やトイレ介助時等には本人のプライバシーに最大限配慮し、利用者の個室におじゃまる時にも必ず声掛けをするよう努めている。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者個々の情報をスタッフ全員で共有し、利用者との会話や何気ない言葉や表情から本人の意思を引き出し感じ取れるよう努めています。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望に沿って支援している	毎日利用者様と談話する時間を持ち、その中で食べたいものや、したい事等を聞きながら利用者の希望に添える様努めている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	基本的には利用者様と相談しながら、その人らしさを引き出せるよう努めています。又、外出時等でいつもと雰囲気が違う服装の時には声をかけ、自信につながり、意欲的になって貰えるような声掛けに努めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者様皆さん毎日の食事を楽しみにされているので、利用様の食べたいものを聞いたり、新鮮な食材を使い、食事の中でも季節を感じ、楽しく食事をして頂けるよう心掛けている。又、食後の片付けを自分の役割とと思ってくださっている利用者様もいらっしゃるので、今後も継続して行ける様努めます。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	メニューを記入し、栄養のバランスを考慮した食事が提供出来る様努めています。又、一日の食事摂取量や水分量を毎日記録に残し、職員間で情報を共有している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	自分で出来る利用様には毎食後歯磨きやうがい、声掛けをし、介助が必要な利用者様には歯ブラシやモアブラシ等で口の中や舌に汚れが残っていないか確認している。又、就寝前には毎日必ず義歯洗浄を行っている。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	利用者個々の排泄のリズムに合わせ、時間を見て誘導の声掛けを行っている。又、排泄の失敗があった場合にも本人のプライバシーに配慮し、さりげなく声掛けしている。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	昼食時にヨーグルトを摂ってもらったり、水分摂取の声掛けやホール内での歩行運動を行って頂いたり無理のない排便が出来る様工夫している。それでも自然な排便が困難な方については医師に相談し薬の処方をしてもらっている。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に沿った支援をしている	入浴の曜日に特に決まりはなく、基本的には入浴の時間帯は決まってはいるが、希望があれば時間帯をずらす等し、気持ち良く入浴出来る様支援し、三日に一回は入浴出来る様している。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	個々に居室がある事で日中でも休みたい時には自由に休める環境です。又、夜間についても入眠前にスタッフとゆっくり談話をする事で気持ちが落ち着き良眠される方等、利用者個々のペースで生活して頂いています。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	個別に処方内容をファイルしており、いつでも確認出来る様にし、薬の変更があった場合には個人記録に記入、申し送りして全職員が把握出来る様にしている。又、薬をセットする際には間違えのない様複数名で確認している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	利用者様個々の出来る事、食後の片付けや洗濯たたみ、新聞紙折り等、職員と一緒に、作業前後には必ず利用者様に「お願いします」「ありがとうございます」とお礼をする事で、やりがいを感じる事が出来る様支援している。又、作業だけではなく、一緒にカラオケをし、楽しんで頂けるよう努めている。		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望に沿って、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	御本人の体調に合わせて一緒に散歩をしたり、家族様からの外出や外泊の希望があれば自由に行ってもらっている。ただ、季節的に冬場は雪が多く風も強い為外出の機会が少なくなってしまう。		
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	個々に御家族様と相談し、事業所が預かり管理しているが、本人がほしいものがある時には、御家族様に連絡し、準備してもらったり、購入したり出来る様にしている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	利用者様が電話をかける時にはゆっくりと話が出来の様自室にてして頂いている。手紙や荷物が届いた時には本人に手渡し、これまでの関係が断ち切られる事がない様努めています。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用空間のホールでは生活感が感じられるような匂い(調理の音や匂い、何気ないテレビの音等)の中で過ごして頂いている。又、季節感を取り入れた飾り付け(正月、クリスマス、ひなまつり等)をし、目でも季節を感じる事が出来る様している。又、スタッフが作る雑音には十分に気を付け、ゆったりと居心地良く過ごして頂けるよう心掛けています。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ホールのソファや食卓テーブルで気の合った利用者様同士と一緒にテレビを見たり、談話をしたり、カラオケをしたりと思い思いに過ごされているが、共用空間に独りになれるスペースはない。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもをを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入所時には御本人の馴染みのものを使用して頂くよう声掛けをしています。又、身体状況に合わせた物の配置を御本人、御家族と相談しています。生活する中で不都合が生じていないか?等に心掛け、安全に心地よく過ごして頂けるよう努めています。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	食卓テーブルに利用者の名前シールを張り出し自分の場所が分かる様にしている。トイレにも大きく張り出す事で分かりやすくしている。又、トイレ内の流すボタンも分かりやすく説明を書くことで自分で認識出来る様にしている。入浴時には浴室のドアに使用中の札を掛けることで分かりやすくしています。		



### 目標達成計画

事業所名 グループホーム羅臼しおさい

作成日: 平成 30年 11月 1日

#### 【目標達成計画】

優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取組内容	目標達成に要する期間
1	12	介護員不足の為、利用者定員を制限せざるを得ない状況である。	介護員が十分に満たされ、利用者定員を制限する事なく柔軟な対応が出来る体制を整えたい。	求人等、法人を挙げての取り組みをする。	12か月
2					
3					
4					
5					

注1)項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入してください。

注2)項目数が足りない場合は、行を追加してください。